壊れたおもちゃに新たな命を吹き込む

～弘前おもちゃ病院の思い～

取材先:弘前おもちゃ病院
院長　小山内様
編集者:直井、後藤、
冨澤、中村、中澤

おもちゃにかける想い

弘前市におもちゃの修理を無料で行う弘前おもちゃ病院がある。代表者である小山内忍さんは、約十六年前に弘前市内で活動を開始した。小山内さん自身は、それ以前より東京でおもちゃ病院の活動を行っていた。その時から、弘前でおもちゃ病院を早く開院したいと思っていたそうだ。なぜなら、当時青森県におもちゃ病院がなかったからだ。だが、青森県は東京都に比べて給料が低く、おもちゃ病院をやっている場合では無いと思ったこともあるらしい。そんな時、ホームページで小山内さんのことを知った一人のお客さんがおもちゃを直して欲しいと小山内さんのもとにやって来た。そのお客さんのおもちゃを修理している時、小山内さんは自分の手が鈍っていることに気づき、おもちゃを修理できなくなるくらい手が鈍ってしまうのではないかという怖さを感じたそうだ。同時におもちゃ病院の必要性も感じたことから、東京から弘前に移住してすぐにおもちゃ病院の活動を開始したと語った。

小山内さんにやりがいを感じる瞬間を伺ってみると、「子供たちが直したおもちゃを嬉しそうに持って帰るのを見た時」だそうだ。中にはスキップをしながら帰っていく子もいるという。そのような子供たちの姿を見られた時にやりがいを感じると話していた。また、小山内さんはおもちゃを直す時に、「何とかして直したい」という思いを持ちながら作業しているそうだ。時には、おもちゃと会話しているような気持ちで作業をおこなっているという。ただ、全てのおもちゃを完全に直せるという訳ではなく、直らないまま子供たちに返さなければならい時もあるらしい。そのような時には、子供たちに可哀想なことをしてしまったと感じ、また、自分自身の中にも悔しい気持ちが残るという。この点が、おもちゃ病院をやっている中で唯一大変だと思うことだと小山内さんは話してくださった。

全国のおもちゃ病院では、現在、高齢化の影響でおもちゃ病院が営業できず、廃業してしまう地域も少なくはない。小山内さんは、「始めたからには、楽しく・長く続けていきたい」と生き生きと語っていた。また、子供たちがいる限りはおもちゃは絶対に必要であり、おもちゃが壊れてしまったら直してくれる場所も必要であると活動を続ける中で思うそうだ。長く活動を続ける為にも周りで支えてくれる仲間の存在はとても大切だそうだ。特に、青森県では、おもちゃ病院のドクターの勉強会などを開いておもちゃ病院同士の繋がりを大切にする活動も行われている。

聞いてみたいこと！TOP5

①在籍人数は？
●ドクター二十一名、ナース六名で活動中
《二〇二三年五月十一日現在》

②ドクターの年齢層は？
●小学生から大学院生も含め、幅広い年齢層が集まる。今後の活動にさらに期待が高まる！

③修理したおもちゃの個数は？
●十六年間で、**約五二〇〇個**

④SNSの活動は？
●YouTubeやXにおいても精力的に活動している。他のおもちゃ病院のスタッフにも役立っているらしい。

⑤一日の利用者数は？
●一日平均二十人以上！親子や家族で訪れる人が多いんだそう。

【開院情報】
●毎月第二土曜日
↓ヒロロ三階にて開院
●毎月第四日曜日
↓弘前市社会福祉センター二階にて開院

利用者に聞いてみた!!

弘前おもちゃ病院を親子で利用していた鳴海さんにインタビューを行いました！五歳のお子さんは、「おもちゃを直してもらって嬉しかった。」と笑顔で答えた。またお母さんは、「おもちゃ病院はなかなかないからあってくれて助かった。」と語ってくれた。また、小学生の頃におもちゃ病院に行ったことがある方にもインタビューしました！その方は、「お気に入りのおもちゃが捨てずにもう一度使えるのは嬉しい。」と語った。

編集後記

《おもちゃ病院を取材してみて》

今回、おもちゃ病院を取材してみておもちゃ病院の必要性を認識することが出来た。子供の成長に必要不可欠なおもちゃに携われるボランティアは珍しく、とてもやりがいのあるものであるという事も知ることが出来たと思う。

弘前おもちゃ病院は、子供が喜んで帰ってくれるだけではなく、親にとっても子供の笑顔をみることができ、おもちゃも直してもらえる素晴らしい場所であるとわかった。

皆さんも、弘前おもちゃ病院を利用して笑顔になってみてはいかがでしょうか。